

DU WATCH

劣化ウラン研究会ニュースレター 第9号(2004/1)

〔はじめに〕

2003年10月16日から19日にかけて、ドイツ、ハンブルグで劣化ウラン国際会議が開催され、20カ国200名以上の参加でウラニウム兵器の環境や人体への影響、国際法上の位置づけ、廃絶の取り組み等について討議が行われました。日本からは20名あまり参加し、会議場でも活発な討論をしたこともあり、大きな関心を引いていたとのこと。そのときに参加をされた松井英介さんに、そのもようをレポートしていただきました。

松井 英介さんは放射線呼吸器医療等専門医であるとともに、アフガニスタン国際戦犯民衆法廷東海公聴会にて、劣化ウラン問題について専門家の立場から証言されています。

「劣化ウラン」・ウラン兵器国際会議

in Hamburg, 16-19 Oct. 2003

医師 松井英介

自衛隊派兵を前に

アメリカのイラク攻撃、アフガニスタン攻撃とは何だったのか。その本質的な論を棚に上げたまま、自衛隊をいつ派兵するののかというところに日本のマスメディアの報道は収斂している。基底にあるのは国益論。「日本の国益を考えたとき、アメリカ合衆国主導の利権争いに乗り遅れるのは得策ではない。しかし、自衛隊員の生命の危険を無視することはできない。いつなら・・・」といったところだろう。

日頃は優しい良い人でも、アメリカ一辺倒国益最優先マスコミ報道に毎日曝されると、確かにそうだなあ、と思ってしまう。考えても、せいぜい自衛隊員が殺されると気の毒だから止まり、自衛隊員が殺すイラクの人びとのことは考えない。最もつらい立場におかれているイラクやアフガニスタンの子どもたちのことは想いもしない人が多いのではないだろうか。それはそうだろう、そういう“日本国民”の思考パターンを醸成することが、ブッシュ=コイズミ報道官たる日本マスコミの役割なのだから。TVづけの日常から脱却し、事実を自分の目で確かめようと努力しない限り、現地の子どもの顔は見えてこない。

そもそも第1次湾岸戦争、旧ユーゴスラビア攻撃、アフガニスタン攻撃そして今回のイラク攻撃とは何

だったのか。石油の利権目的だ、イスラム世界支配が目的だ、などなどアメリカ・イギリス・日本など“大国”の野望について、加害の側からのさまざまな分析はなされている。しかし被害の実態を丹念に取材し、民衆の苦悩を伝える報道はほとんどない。

ハンブルグで劣化ウラン国際会議開催

第1次湾岸戦争(1991年)以降アメリカが本格的に実戦で使い始めた「劣化ウラン弾」・ウラン兵器。人類史上最も狡猾、非人道的かつ環境破壊的大量破壊兵器に関する国際会議は、2003年10月16日から19日までドイツのハンブルグで開かれた。アメリカ、イギリス、日本、イラク、アフガニスタンなど20カ国からの200人余りが、ハンブルグ大学の講堂に集まった。

「劣化ウラン弾」はアメリカ合衆国が開発し、1991年以来、イラン・旧ユーゴスラビア・アフガニスタンなどで大量に使ってきた新しい核兵器だ。

この新しい核兵器のやっかいなのは、二つの意味で目に見えないことだ。

ひとつには、マスメディアが事実を伝えない。ブッシュが紙一枚通さないから安全だということ、それをオウム返しする。ウソについて、その危険性と被害

の実際を隠す。

もう一つは、物理的に見えない。「劣化ウラン弾」が戦車などを貫通して高熱（4000-5000℃）で燃えたとき、それは数ミクロンメートル（1000分の1ミリメートル）以下の小さな粒子になって空気中に漂い、風に乗って数千キロメートルも離れたところまで運ばれる。呼吸とともに肺の中に吸い込まれた「劣化ウラン」粒子は長期間肺内に留まる。さらにそこから血液やリンパ液に乗って全身に広がる。また、水や土や食べ物に入りこんだ「劣化ウラン」粒子は、小腸から取り込まれ、体中に運ばれる。骨髄に沈着して白血病を起こす。胎盤に到達して胎児に先天障害をもたらす。

しかも「劣化ウラン」の半減期は45億年（放射線の強さが45億年たって、やっと半分になる）。自然環境・生態系に甚大な影響を与える。何世代にもわたって悪性腫瘍や先天障害などさまざまな障害を生み出し続ける。これ以上残酷な兵器はない。

体内被曝の恐ろしさを強調

「劣化ウラン」の最大の問題点は、これまで国際放射線防護委員会（ICRP）が無視してきた体内被曝だ。この会議に先立って出版されたヨーロッパ放射線障害委員会（ECRR）2003年報告は、ICRPを批判し、体内被曝の危険性を広く知らせた。このECRR 2003を、精緻な調査研究をもとにして纏めた科学者・医師・市民が、「劣化ウラン」の被害者たちとともに開いたのが、ハンブルク会議だと言える。

体内被曝に関してハンブルク会議の決議は、つぎのようにICRPを批判している。

ICRP リスクモデルに関する会議声明

1) 本会議は、劣化ウランのような小さな放射性微粒子からの内部放射線被曝に対して、国際放射線防護委員会（ICRP）のリスクモデルを適用することを退ける。その理由は、そのような微粒子からの被曝によっては生体組織に局所的に高い密度の電離がもたらされるからであり、このことはICRPが受け入れている外部放射線線量モデルによる平均化の方法によっては適切にモデル化できないからである。このICRPモデルが依拠している知見は、誤りであり、

時代遅れである。このモデルは、炎を前にして暖をとることと熱い石炭を食べてしまうことを比較するようなものでしかない（山内知也訳）。

4日間の会議の中で、印象深かったのは、アメリカ、オーストラリア、スペインなどの帰還兵・退役軍人や遺族の証言だった。「劣化ウラン」の被害者が一堂に会したのは圧巻だった。

10年以上続く経済封鎖のもとで、安全な水がない、タンパク質が十分ない。抗生物質がない。点滴の液も器具もない。手術のための糸や針がない。白血病治療薬もない。そして今回の爆撃。つぎつぎに死んでいく子どもたち。イラク現地で悪戦苦闘している医師の報告は、広範な国際連帯なしには問題は解決しないことを物語って余りあるものだった。

もう一つ、感銘を受けたのは会の合意を創り上げているやり方だった。10人前後の少人数で、テーマ別に提案を出し合って議論を重ね、決議と行動計画を纏めていく。原案を誰かが準備して形式的な質疑をするどこかのやり方とは根本的に違う話し合い方法は、新鮮だった。

「希望とは、望みが少ないの意。でも絶望よりは良い！」という意味のことを徐京植は述べているが、世界各地から集まった良心の人びとの活発な論議とその結果到達した合意。プッシュ主導の閉塞的状況を打ち破る唯一の力である民衆の連帯行動であり、そのための明快な指針を指し示したのがハンブルクでの国際会議だった。そこには、希望があった。

会議の結論

会議は、「劣化ウラン」などによる汚染地域の水・土・空気の徹底調査と健康影響の疫学・臨床検査、更に被害者の治療をINEP（国連環境計画）とWHO（世界保健機構）が、IAEA（国際原子力機関）などの国際機関に影響されることなく、責任をもって推し進めるべきであるとする3つの決議と自由大学を開校しようとする行動計画などを採択した。

3つの決議の詳細は、ストラスブルグ在住・山内知也さんのつぎのHPで、熟読いただきたい。http://www.jca.apc.org/mihama/d_uran/hamburg_uranium_res.htm。さらに詳しくは、ハンブルク会議のつぎのHPをどうぞ。

<http://www.uraniumweaponsconference.de>

【翻訳資料】

世界劣化ウラン / ウラン兵器会議

第1号決議

ハンブルグ、ドイツ

2003年10月19日

ICRP リスクモデルに関する会議声明

プレスリリースと会議の議決について(抄)

圧倒的多数の会議参加者は次のことに同意している:

・劣化ウラン/ウラン兵器の使用は、現在の法律(国際法と合衆国軍事法)と協定に違反している。

・将来のキャンペーンと協定によって、劣化ウラン/ウラン兵器の「禁止」を「廃棄」という言葉に置き換えなければならない。

・2004年のイラクに対する独立系の国際戦争犯罪法廷を支持する。

・イラク人専門家によって発表されたイラク南部における劣化ウランによる環境汚染と疫学的証拠は、劣化ウランと増加が観察されている放射線に関する疾病との直接的つながりを明らかにしている。

・本会議は、劣化ウランのような、微細な放射性微粒子による内部被曝に対して国際放射線防護委員会(ICRP)モデルを利用することを退ける。そして、欧州放射線リスク委員会(ECRR)に、その2003年に公表された低レベル放射線についてのリスクモデルを、劣化ウランからの健康リスクの分析に拡張することを進言する。

・政府当局や原子力ロビーを背景にした学会から加えられる改ざんや資金的な圧力とは無関係に、信頼できる研究結果を提供するための、独立した研究と教育のための学会、「自由大学」の設立が緊急に必要なとなっている。

・国連環境計画(UNEP)や国際保健機構(WHO)は、原子力ロビーの一部であると認識されている国際原子力機関(IAEA)と無関係になるような圧力を加えられるべきである。これは汚染された地域の包括的な調査を実施するためにはどうしても必要である。汚染された地域には、離れたホット・スポットや除染された戦場、ウラン兵器実験場、世界中の製造工場や軍事施設が含まれる。

・影響を受けている兵士や市民に対して即刻の医師による手当がなされるべきである。会議の決議と結論についての完成したものはまもなく次のサイトで見られるようにする:

<http://www.uraniumweaponsconference.de>

1) 本会議は、劣化ウランのような小さな放射性微粒子からの内部放射線被曝に対して、国際放射線防護委員会(ICRP)のリスクモデルを適用することを退ける。その理由は、そのような微粒子からの被曝によっては生体組織に局所的に高い密度の電離がもたらされるからであり、このことはICRPが受け入れている外部放射線線量モデルによる平均化の方法によっては適切にモデル化できないからである。このICRPモデルが依拠している知見は、誤りであり、時代遅れである。このモデルは、炎を前にして暖をとることと熱い石炭を食べてしまうことを比較するようなものでしかない。

これに加えて、あるひとつのウラン微粒子に近接する生体組織が、複数の放射線飛跡を受けることは、遺伝子の変化を引き起こすより高いリスクをもたらすことになる。なぜならば最初の放射線へのヒットに反応している最中の細胞が、再びヒットされるからである。今ではこれが科学的知見になっている。5マイクロメートルよりも小さなウラン粒子からは、一日あたり2回のヒットがもたらされる。

2) 本会議は、さらに小さい劣化ウランの微粒子は、リンパ系を通じて身体のあらゆる部分に輸送されることが可能であると考えている。そのために、最終的にはあらゆるガンがもたらされるようになるにもかかわらず、リンパ腫や白血病の観察が支配的になっているのだと考えている。

3) そのような小さな微粒子は胎盤に進入することが可能であり、そして、おそらくそれによる放射線は胎児に影響を与えるのであろう。

4) 本会議は、欧州放射線リスク委員会(ECRR)に対し、内部放射線被曝のリスク評価のためにその委員会が2003年に開発した、その公衆衛生的なモデルを劣化ウランによる健康影響の分析のために、拡張することを強く主張する。我々は他のあらゆる独立系グループがこの重要な問題について発言することを呼びかける。「自由大学」に関する会議声明 本会議は、独立した研究と教育とをになう機関、「自由大学」を設立する緊急の必要性

があると考え。そこにおいては産業の急速な拡張や有害物質及び放射線物質の環境への放出に関係する、現在の深刻な健康と環境、そして経済問題がとり組まれるであろう。

そのような大学は、多国籍企業や政府、そして軍からの資金によって研究が制約をうけることに束縛されないという意味において「自由」であり得る。

そのような大学の最初のプロジェクトのひとつは、特に劣化ウランの影響を含む、低線量の人造放射線と健康との関係についての調査になるであろう。

本会議に参加した科

学者は、互いに劣化ウランと健康との問題に関係する新しい研究やアイデアについての情報を提供するネットワークになるであろう。本会議に参加した科学者は、ハンブルグウラン兵器委員会（Hamburg Commission on Uranium Weapons）と名付けた新しい機関を設立することに合意する。

2003年10月19日



2003年10月16日
ドイツ、ハンブルグ
劣化ウラン国際会
議で演壇に並ぶ帰
還兵と遺族たち

UMRC「ドラコビッチ博士による調査報告」

2003年11月24日 東京

【はじめに】

私は過去25年間にわたり核兵器の影響を研究してきたが、広島を訪れていまだにその衝撃から抜け出せないでいる。その後、京都で寺院や仏像を見て心の安らぎを得た。

「UMRC」の標語の上段にはラテン語で「一滴の水が岩をも砕く」と書いてある。この集会在、世界に平和のために「岩をも砕く一滴の水」となることを祈ってやまない。本日は「放射能戦争の健康への影

響」と題して進めたい。

13年前までの戦争は核兵器、生物兵器、化学兵器が中心であった。1991年の第一次湾岸戦争で新しい形の、放射能戦争が始まった。広島、長崎ではウランは検出されず、440種類の放射性同位体で汚染された。91年以降、放射能戦争は一つの放射性同位体で汚染し、動植物、人間を問わず影響を与えている。米、英、カナダの各政府はウランの健康への影響を否定している。しかし、科学は政治の道具ではない。UMRCの使命は放射能兵器の汚染の医学的、環境面での影響に関して独立した立場から研究を行うことです。91年から導入された放射能兵器は最も恐ろしい、新しいタイプの武器であり、ウランの同位体の危険性について、どんなウソも通用しない。

爆撃時点からウランは放射能のチリとなる。私は、サウジアラビアに2年間に在任していたが、そこは砂嵐が日常茶飯事であった。砂嵐は目の前の指すら見え

なくなる程であり、身を守るすべはない。兵士は放射能を含んだチリを吸い込んでしまう。砂嵐はペルシャ湾、リヤド、バーレーン、カタール、シリア、イスラエルなど周辺地域に拡がっていく。

第一次湾岸戦争では、少なくとも350トンの劣化ウランが砂漠に滞留することになった。パルカン戦争では、11トンの劣化ウラン弾がボスニア、コソボで使われている。今年の第二次湾岸戦争では、2000トンを下らない量のウラン弾が落とされたと見られている。

昨年から、今年にかけてアフガニスタンに3回、イラクに2回、私たちは現地調査を行い、数百のサンプルを採取した。

科学的論文を発表したが、米、英、カナダ政府は、劣化ウランが使われたことや危険性を否定している。

【第一次湾岸戦争の調査をめぐって】

91年にワシントンDCの近くにある連邦病院の核医学クリニックに私は勤務していた。帰還して病気になった患者を検査したときに、放射能汚染を受けていることが判明した。それが、湾岸戦争症候群のはじまりであった。その途端、アメリカ政府は、私たちに研究をやめると命令を出した。私の人生にとって困難な時期であった。脅迫されたり、懐柔されたり、忠告に従わねば専門的立場を失うぞとも言われた。それを拒否して、研究・調査を続けた。

湾岸戦争の10年後に調査したが、尿の中に劣化ウランを検出した。これを国際会議で発表したとき、政府の高官はパニック状態になった。アフガニスタンとイラクでの調査結果においては、U238、U236の比率の違いがあり、U236を含むものは、たぶん使用済核燃料の再処理の段階で作られたもので、このことを発見した。そもそも放射能兵器の使用は、1948年のジュネーブ条約で禁止されている。

【ヒバク10年後も劣化ウランに汚染】

劣化ウランの影響に関して真実を語ったがために、私やカナダの医師が職を解かれてきた。私たちは自分自身にウソをつくより、自分の名誉を守ってきた。カナダ政府は、200人の帰還兵の検査をしたが、検査方法が間違っていた。生体組織のサンプルに毛髪や爪を使っては、ウランは検出されないばかりか、ICTMSという質量分析器では、U236は検出できない。

サウジアラビアでも湾岸戦争症候群と似た症状を見ているが、圧力がかかって、診察を許されていない。

【アフガニスタンの劣化ウラン被害】

東京に住む人の場合、リットルあたり17ナノグラムのウランを尿に含むと思われるが、アフガンのサンプルでは250ナノグラム、130ナノグラム、人によっては500ナノグラムの非劣化ウラン(编者注:劣化ウランの組成とは異なるウラン)を検出した。6番目のサンプルでは、2031ナノグラム/リットルです。これは事故でも、計器の故障でも、計測上のミスでもない。爆撃直後の村に戻り、瓦礫の下の兄弟を助けようとした男の子のサンプルです。14ヶ所の土壌サンプルと8ヶ所の水のサンプルもウランの濃度が高い。アフガンでは3回目の調査で33サンプルを採取し、1ヶ月前にイラクから87の尿サンプルを持ち帰った。04年2月にイラクの他の地域からもサンプルをとりたい。

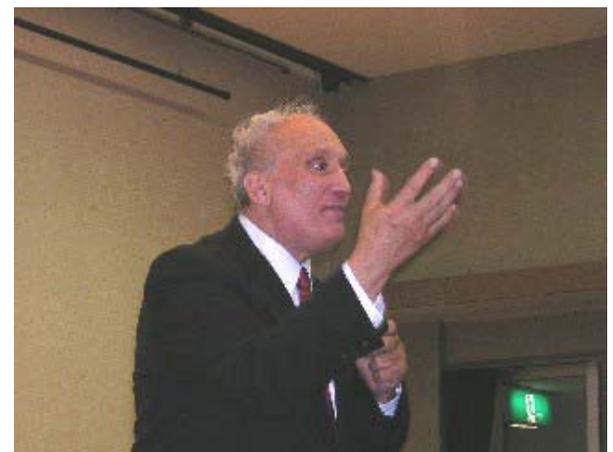
【将来について】

イラクでは放射能戦争の形態となっている。リスクが何もないとすれば、新たな大量破壊兵器を導入する段階になっている。

(原子雲の写真を前にして)世界が、このようにならないことを祈りたい。

通訳:岩川保久 要約:福島和夫(劣化ウラン研究会)

元米軍大佐であるアサフ・ドラコビッチ博士の報告はレポート用紙にして、約30枚ほどあり、以上の要約は1/4ほどにしてあります。彼のユーモアやシニカルな発言のニュアンスが伝えられないのがとても残念です(福島)



ニュースクリップ

オランダの独立系メディアが、劣化ウランについて精力的に追求しています。その中から自衛隊が派遣されているイラク南部のサマーワについて、劣化ウランが見つかったことを報じました。その訳を紹介します。

オランダの部隊がイラクで劣化ウラン弾を発見した

R I S Q (1) ニュース
2 0 0 3 年 1 2 月 2 7 日

この発見は、その区域でもっと多くの劣化ウランの存在を示している

南イラクでアル・ムサンナ州に配備されたオランダ軍の兵士が30ミリ劣化ウラン弾を発見した。これは今日国防省によって発表された。R I S Q 設立者のマーティン・H・J・バン・デン・バーグによれば、この調査結果は、その区域にもっと多くの劣化ウランが存在していることを示している。

弾丸はサマーワで12月10日に発見された「弾痕」の中に存在した。オランダ国防省の報道官によれば、弾丸は壊れずに原形をとどめていたことから、劣化ウラン粉塵は放出されず、発見に関与した人たちの健康は危険にさらされなかったという。

報告された口径から考えると、弾丸はおそらく合衆国起源のものである。バン・デン・バーグ氏によれば、30ミリの劣化ウラン弾はイラクでは米軍のアパッチヘリコプターと米空軍のA-10「イポイノシシ」によって使われただけである。

今年早く公表されたR I S Q 報告(2)が確認したように、30ミリ劣化ウラン弾は1998年と、最近では「イラクの自由」作戦の間にサマーワ空襲で発砲された。従って、「その区域にもっと多く劣化ウラン弾が発見される可能性は高い」と、バン・デン・バーグ氏は結論する。

オランダの陸軍職員組合は事件について懸念を提起した。「先週我々は国防省の当局者に話をした、しかし彼らは事件に言及しなかった」と、J・クリーン氏、クリスチャン軍人協会(ACOM)の会長は言う。国防軍兵士組合(VBM)の彼の同僚は、情報共有について国防省との事前の協定を指して「これは大衆に隠されてはならないこと」と述べた。

7月に国防大臣は議会に「劣化ウラン弾は最近ではアル・ムサンナ州では使われなかった」ことを保証していた。しかしながら、R I S Q の記事(3)が議会質問を提起するように導いたと伝えたように、大臣は保証が証明されていない情報から生じたことを認めた。米国政府が「まだイラクにおいて劣化ウラン弾を射った位置のアセスメントを準備する途上である」と言っていると述べて、オランダの政府の最新の見解は「この調査の結果を待っているところである」という。出典：<http://www.risq.org/viewlink-306.html>

訳注

(1) R I S Q 2002年1月にマーティン・H・J・バン・デン・バーグ氏によって設立された独立系の報道NGO。約30名のスタッフにより、市民権、多文化社会、宗教、グローバリゼーション、言論の自由、プライバシー、新しい戦争と人権、生命と科学、バイオ工学、遺伝子操作などについて論説を発表している。

(2) これまでのR I S Q の劣化ウラン関連報道は、次のURLから一覧できる。

<http://www.risq.org/link-61.html>

(3) 「南イラクの劣化ウランに関して、誤った情報を与えられた議会と兵士」

2003年7月21日

Dutch Parliament and Troops Misinformed about Depleted Uranium in South

Iraq <http://www.risq.org/article135.html>

など。

国連環境計画はイラク戦争での劣化ウラン汚染予防措置を要求

2003年10月20日

国連環境計画は10月20日に「Environment in Iraq: UNEP Progress Report」(イラクの環境 UNEP 国連環境計画 中間報告)という報告書を公表した。4月24日に公表した予備調査報告書に続くものだが、この報告書でも具体的な危険性などについては触れられていない。しかしながら日本政府が言うような「危険性は確認されていない」といった姿勢ではない。あくまでも危険であることを前提とした緊急対策が盛り込まれているのである。

全44ページの報告書から、劣化ウランの項目のみを訳出して掲載する。

2.7 劣化ウランの使用

1991年の湾岸戦争は、広範囲に劣化ウラン(DU)兵器が使用された最初の戦闘であった。湾岸戦争において劣化ウランは合計約300トンが使用され、依然として環境中に微粉末や小さい破片として残されているという状態で、今回の戦争では米国と英国によって再び使用された。

米国国防総省と英国国防省は連合軍が2003年のイラク戦争で劣化ウランから作られた弾薬を使ったことを認めた。例えば、英国のチャレンジャー戦車が1.9トンの劣化ウラン兵器、これは英国軍が1991年の湾岸戦争で使った量のおよそ2倍を使用した。劣化ウランは英国軍によって戦車戦でバスの西側と南西側で使用した。

英国国防省は英国の劣化ウラン標的位置の詳細を国連環境計画に提供し、市街地や環境中における劣化ウランの長期のモニタリングと、水資源を含む劣化ウランに関するリスクアセスメントを実行することについてのアドバイスを提供しようと申し出た。英国の国防省によれば、標的地点は射撃位置から最大距離で3キロ以内にある可能性が高いという。

2003年6月には、英国国防省からの科学者が劣化ウラン弾丸によって攻撃されたと思われる若干のイラクの戦車の予備的で専門的なアセスメントを完了した。これまでのところ英国国防省調査結果は、これらの戦車の近傍で非常に低いレベルの劣化ウランの存在を確認している。重火器などの大部分が、主に兵隊によって、戦場からスクラップエリアに動かされた。これが英国の科学者が実際に戦場に残っている戦車あるいは他の重火器を見つけることを難しくし、科学者は発見された戦車の大部分が低いレベルの放射線を示したことを指摘して、そして明らかに劣化ウラン攻撃によって打撃を受けたことを示すペイントのマークが付いていた。

国連環境計画は環境アセスメントあるいはイラクの劣化ウラン汚染の改善のための情報を米国からは受け取れなかった。

米国の航空作戦、戦車戦と地上作戦で使用された劣化ウランの数量はまだ未知数である。

通常劣化ウラン兵器を搭載する車両 - エイブラムス戦車(M1A1、M1A2)、ブラッドリー戦闘車輜(M2)と軽装甲車両(LAV-25) - が戦闘に参加した。現在ミサイルあるいは戦争の間に使われた爆弾 - 特にAGM-86D CALCM 硬化目標貫通体(153発が使われた)あるいはバンカーバスター - に

劣化ウランが含まれているという証拠はない。

メディアは時折破壊されたイラクの車両のスクラップエリアの映像を見せた。これらの写真は地元の人々が通常これらの区域への自由な進入路を持っていて、鉄板のような素材を抜き取っていたことを明白にした。これらの区域には劣化ウランによって打撃を与えられた車両が含まれると思われる。

このことから即刻、これらのエリアの車両が調査されるべきであり、そして劣化ウランによって打撃を与えられたそれらは接近が厳重に制御されているエリアへ移動されるべきである。

最近、2003年8月に出版された国際原子力機関の報告によれば、1991年の湾岸戦争で使われた兵器からの劣化ウランは、クウェートの人々に長期の放射線の危険を与えないとしている。クウェート政府は、2002年2月にIAEAに対してクウェートの11地点において劣化ウラン残留物により起こりえる長期の放射線の影響を算定するように要請した。この報告の調査結果では不安を与えはしないけれども、それ以上の政策行動と追加調査が、イラク戦争で使われた劣化ウラン兵器の結果に関して不確実性を解決するために必要とされる。

これまでの情報に基づけば、2003年の戦闘の間に使われた劣化ウランの多くは、市街地、人々が生きて、働いて、水をくんで、そして食物を育てる地域あるいはその近くであるように思われる。従って、汚染されたエリアを識別し、そしてアセスメントを実施する必要があり、住民は健康診断を受けて、そして追跡調査されるべきである。

人々は一般に明らかに劣化ウラン被曝についての危険性に気が付かない。潜在的な危険性の存在を提起し、警告を行うことが必要であり、さらに緊急措置として汚染された位置と廃棄物貯蔵場所への接近を制限する保護法案が必要である。



Ayari, TI, debris aluminum and other reliable metals from a tank potentially contaminated by DU

【書籍】

「放射能兵器・劣化ウラン - 核の戦場・ウラン汚染地帯」

劣化ウラン研究会編、技術と人間社発行
2003年3月 定価2500円
〒162-0814 東京都新宿区新小川町3-16
TEL:03-3260-9321 FAX:03-3260-9320

「ボクは死ぬんだ。死んでしまうのだ。」イラクの小児病棟では連日、血を吐きながら子どもたちが死んでゆく。劣化ウランは史上最悪の大量殺りく兵器である。この兵器を使用しているかぎり、人類だけでなく、地球上の生きとし生けるものに未来はない！

<主要目次>

- 第1章 危険な劣化ウラン弾
- 第2章 劣化ウランの軍事転用
- 第3章 核燃料サイクルと劣化ウラン
- 第4章 身近にあらわれる劣化ウラン
- 第5章 劣化ウランおよび劣化ウラン兵器
廃絶運動

<著者紹介> (50音順)

- | | |
|-------|-----------------------|
| 伊藤政子 | アラブの子どもとなかよくする会 代表 |
| 新倉修 | 青山学院大学法学部教授 |
| 野村修身 | 電磁波問題市民研究会代表 |
| 藤田祐幸 | 慶応義塾大学物理学教室助教授 |
| 森住卓 | フォトジャーナリスト |
| 矢ヶ崎克馬 | 琉球大学理学部教授 |
| 山崎久隆 | 劣化ウラン研究会代表 |

【ビデオ】

「劣化ウランの恐怖」

製作：ラムゼー・クラークほか
日本語版作成：
市民平和訴訟の会
1998年、35分
3500円
ビデオプレス
TEL:03-3530-8588
FAX:03-3530-8578

「劣化ウラン弾の嵐」

製作：アルジャジーラ
2000年、1時間20分
4000円(+送料390円)
アース・チャイルド
(地球の子ども新聞)
TEL/FAX:03-3703-9468
E-MAIL:
peco02@lapis.plala.or.jp

「悪の枢軸とは誰のこ か：劣化ウラン弾とイラク の子どもたち」

製作：豊田直巳ほか
2002年、13分
1400円
プロデュース嘉指信雄
TEL:090-7897-2095
E-MAIL:
horizons@cc22.ne.jp

劣化ウラン兵器を

造らせない 持たせない 使わせない

劣化ウラン研究会

〒176 0002 東京都練馬区桜台1 3 5 野村方 TEL:03-3238-9035(たんぼぼ舎)
E mail: tr2k-tnk@asahi-net.or.jp (田中) URL: <http://www.jca.apc.org/DUCJ/>

入会方法：通信欄に住所・氏名・電話番号・Eメールアドレスを明記して、
年会費(個人2000円・団体4000円)を下記口座へお振込みください。

郵便振替口座 00100-2-155130 劣化ウラン研究会